



アカシア俳句会



令和五年 春季俳句会「句報」 「春」の季語を含む作品一〇五句

「選句」 赤文字：特選

「投句」 作品

作者

敏福岩	泣き腫らし担任もまた卒業す	藤井光正
巨志博	ブランコにかわりばんこの風が吹く	藤井光正
以	猫の恋ビブラートする塀の上	藤井光正
秀	遊園地冠して生駒山笑う	藤井光正
	コロナさえ青春(はる)と胸はる答辞かな	藤井光正
圭恵敏福	思ひ出は茫々 金剛 春霞	中野亘子
敏博	僧一人仲間に入りて花見客	中野亘子
圭茂敏	又一人友逝きしとふ花吹雪	中野亘子
圭徳由秀	父母の齡超へて今年の花衣	中野亘子
以光	春の月見上げて転ぶ芝の庭	中野亘子
福	木漏れ日ややや高くなり竹の秋	戸堂博之
展岩	土筆摘む指触れあひて淡き恋	戸堂博之
	積み残すケイブル駅を山笑う	戸堂博之
	色褪せし箱に祝電「櫻咲く」	戸堂博之
	磯遊び挑む五丁の同心円	戸堂博之
茂佑	国守る熱き血汐ぞ萌ゆる春	西村敏治
徳	春仕度国守る道歩むのか	西村敏治
圭展秀	モーツアルト酔って語った遠き春	西村敏治
展福	はや桜三日見ぬ間に散りそめし	西村敏治
	花見して浮かされて買う宝くじ	西村敏治
元	チューリップつい口遊ぶ色を見て	佐藤茂弘
圭	梅林の小路チヨロチヨロ服の犬	佐藤茂弘
展福志	筍の土のふくらみ足の裏	佐藤茂弘
亘	鳩の湖数万の花吹き入るる	佐藤茂弘
	白髪 <small>の</small> 鳥居 <small>の</small> 脚 <small>の</small> 水温 <small>む</small>	佐藤茂弘
徳元志博	年毎に朽ち逝く梅に少し花	都 福仁
	腰おろす池の土手にも土筆のび	都 福仁
亘	早春の実験明けにコーヒーを	都 福仁
	唐松 <small>の</small> 若芽 <small>清々</small> し <small>北</small> の <small>春</small>	都 福仁
展以恵元	プチプチと雪解け刺さる陽の光	都 福仁

由 ミモザの黄そよ風誘ふテラス席 加龍恵子
 シャンソンの会場いでは花の雨 加龍恵子
 校門で子ら待つ今朝のチューリップ 加龍恵子
 「いいにおい」窓に駆け寄る一年生 加龍恵子
 校庭を駆ける子追ひて花吹雪 加龍恵子

恵 家々に桃満開や戦の世 山家由紀
 しだれざくら樹齡400夕餉とる 山家由紀
 エゴン・シーレ好きだった娘よ花吹雪 山家由紀
 龍一のピアノ聴きつつ春の夜 山家由紀
 ハナミズキあと一句待ち逍遥す 山家由紀

茂 春待ちて耳に優しき笹の葉よ 野本展子
 春うらら剪定バサミの打つビート 野本展子
 綿ぼうし今か今かと風を待ち 野本展子
 若草の土手行く赤いランドセル 野本展子

元 春空に槌音奏で木の家に 網 佑子
 落椿やっとお手てに又落ちて 網 佑子
 水仙香そよ風に乗り気を浄む 網 佑子
 舞ふ落花浴び心溶け新生す 網 佑子
 梅香る如く報恩余生の志 網 佑子

岩 鶯や樹林華やぎホーホケキヨ 前田秀一
 佑光 花の旅地酒ほろ酔ひ長談義 前田秀一
 以恵徳博 古雛の薄目優しや箱の上 前田秀一
 岩由佑 春光や緑地隅々一万歩 前田秀一
 咲き満ちて記念樹桜まちづくり 前田秀一

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名 ()内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、岩崎悦子(岩)、加龍恵子(恵) 楠野圭子(圭)、斎藤優子(優)、佐藤茂弘(茂)
 戸堂博之(博)、中野亘子(亘)、西田稔(稔)、西村敏治(敏)、野本展子(展)、藤井光正(光)、
 前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、元永悦子(元)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志)、
 吉田以登(以)